

ふれあいひろば

[患者とともにある全人的医療]

中国/ハルビン訪問記

新潟市とハルビン市が友好都市を締結してから今年でちょうど40年となります。この10月、当院とハルビン市第一医院との交流事業である第四次青年医師訪問団としてハルビンを訪問する機会に恵まれました。

そこで経験したハルビンの街並みと中国の医療事情について述べたいと思います。

●ハルビンの街並み

ハルビン（哈爾濱）市は、中国黒竜江省の政治・経済の中心地です。市域全体の人口は約1千万人と大都市であり、街中には高層ビルが多くみられました（写真1：ハルビン市内の高層ビル群）。ただ中国の人口は日本の約11倍ですので、これでも中国内では中規模都市とのこと。中国の大きさを改めて実感しました。

新潟からハルビンへは、新潟空港からハルビン直行便で約2時間20分でした。中国に来たつもりが、そこで目にしたのはまるでヨーロッパのような街並みでした。ハルビンは19世紀末にロシア人が多く移住したことで都市化が進み、ヨーロッパ風の建築様式が今も残るため「東洋の小パリ」と称されているとのこと（写真2：車窓から見た聖ソフィア大聖堂）。

救命救急・循環器病・脳卒中センター
田中 敏春

市内を移動中の車窓からは、様々な歴史的建築物を眺めることができました。

●中国の医療事情

ハルビン市第一医院は、1913年に設立された歴史のある病院で、約70の診療科と1,500床のベッド数を誇るハルビン市内でも有数の大病院です。

我々が病院訪問した日、偶然にも一般病棟で急変した重症患者さんを集中治療室のスタッフが懸命に治療対応する場面を見学することができました。救急医療を専門とする私から見て、患者さんのために迅速かつ的確に対応する医療スタッフの姿は普段の我々の姿と全く同じであり、両国の医療水準が同等であることを実感しました。

一方で、医療保険制度は日本と中国では異なっており、我が国の医療制度の素晴らしさを再認識できました（写真3：ハルビン市第一医院外観）（写真4：市民病院医師訪問団3名とハルビン第一医院 李副院長）。

最後に、ハルビンを観光で訪れるならば冬がお勧めだそうです。世界三大氷祭りの一つに数えられる「ハルビン冰雪祭り」が、毎年1月から開催されるとのこと。この機会にハルビンを訪れてみてはいかがでしょうか。



写真1：ハルビン市内の高層ビル群

写真2：車窓から見た
聖ソフィア大聖堂

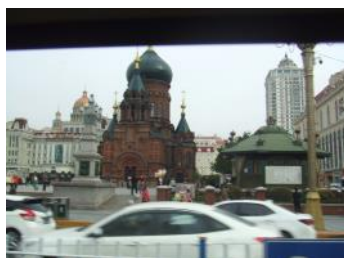


写真3：ハルビン市
第一医院外観

写真4：市民病院医師訪問団
とハルビン第一医院 李副院長



～総合周産期母子医療センターニュース～

きょうだい面会を開始して

2階西病棟 看護師長 島村 恵子

総合周産期母子医療センターの新生児内科には、予定日より早く産まれたり、何らかの治療を必要とする赤ちゃんが入院しています。家族と離れて長期に入院が必要となる児も少なくありません。

当院は、2013年8月にWHO（世界保健機関）/UNICEF（国際児童基金）から『赤ちゃんにやさしい病院（BFH）』として認定されました。

病棟の看護師、助産師をはじめ、医師、薬剤師、管理栄養士など様々な職種のスタッフがONE-TEAMとなって協力し合い、母乳育児支援を行っています。

入院している児の中には、500g未満で生まれ、1歳を超える児もいます。家族と離れる時間が長いため、家族を支援することがとても重要と考えています。

母乳育児はもちろんですが、産まれてきた赤ちゃんが、ご家族に少しでも早く受け入れてもらえるように、私達は『きょうだい（同胞）面会』を始めました。

これまで病棟での面会は、ご両親か祖父母に限られ、時間制限があり、完全予約制でした。

きょうだいは窓越しに会うことはできましたが、直接赤ちゃんに触れることができず、泣いてしまう子もいました。

一昨年からは面会時間を拡大し、10:00～翌朝7:00まで、時間や回数の制限なく、ご両親の都合に合わせて自由に赤ちゃんに会いに来ていただき、授乳やスキンシップをとることができるようになりました。

さらに、きょうだいの面会を実現するため、イメージしやすいようにパンフレットを作成したり、多くの職種が集まって話し合いを重ね、2018年11月からきょうだい

面会を始めています。

もちろん感染症対策を考え、きょうだい面会を行う前に、予防接種の実施や入室前の体調など様々な確認を行っています。

実際に面会したきょうだいは、笑顔で嬉しそうに

「またすぐに会いに来たい」

「次はいつ会えるの？」

「早く一緒に暮らしたい」

などと話し、とても喜び、赤ちゃんの退院を楽しみにしている様子でした。

お母さんは、

「赤ちゃんを初めて見たときに

『ここ～』とした表情が見られてよかった」

など、上のお子さんの嬉しそうな姿を見て上の子の成長も感じつつ、良かったと実感している様子でした。

きょうだい面会が、新しい家族を受け入れるための支援の一つになっていると感じています。

これからも、安全な環境を整え、安心して面会していただけるように、皆さんの声を聴きながら、ONE-TEAMで取り組んでいきたいと思っています。



がんのリハビリテーションとは

リハビリテーション技術科 豊木 麻弓

リハビリテーションと聞くとどのような事をイメージするでしょうか。

脳卒中後、骨折など怪我の後、呼吸の病気、心臓の病気…様々な分野においてリハビリテーションは関わってきます。

最近では「がんのリハビリテーション」も普及してきており、がんに対する治療とリハビリテーションが平行して行われることが多くなってきました。

「がんのリハビリテーション」とは

『がん患者さんの生活機能と生活の質 (Quality Of Life : QOL) の改善を目的とする医療ケアであり、がんとその治療による制限を受けたなかで患者さんに最大限の身体的、社会的、心理的、職業的活動を実現させること』

と定義されています。

そのために当院では専門的な研修を受けたスタッフがを行っています。

テーションと、治療の合併症に対するリハビリテーションがあります。

具体的には手術前後の合併症予防・体力回復であったり、化学療法や放射線治療に伴う合併症や後遺症の予防などがあげられます。

たとえば乳がんの手術後には適切な時期に肩を動かさないと関節が硬くなりやすいといわれており、そのような場合には疼痛に応じて肩関節の運動を行います。

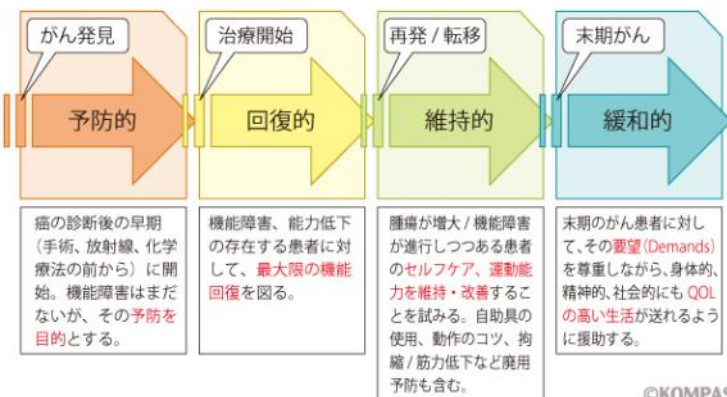
また骨転移に対して負担がかからないような動作指導、日常生活動作練習や福祉用具の検討など様々な事を行います。

さらに、入院が長期化することで体力低下や筋力低下などの症状が現れることもあります。また、がんそのものによる痛みや食欲の低下や息苦しさにより身体の機能が損なわれることもあります。

このような状態になったときでも「がんになったのだから」とあきらめずに、出来るだけこれまで通りの生活を維持し、自分らしく過ごすために欠かせないのが「がんのリハビリテーション」です。

がんと診断されるとその後、運動の機会が減る場合が多いといわれています。適度な運動が継続できることで、倦怠感や精神的苦痛が軽減されるとの報告もあります。

リハビリテーションが可能かどうかはそれぞれの病状によりますので、主治医にご相談ください。



図：慶応義塾大学病院医療・健康情報サイトより

図のように、がんと診断された早期から進行した病態まで、いずれの段階でもがんのリハビリテーションは役割を担っています。

がんそのものの病状に対するリハビリ



寒い冬場に…インフルエンザのお話

臨床検査科 中川 智

●風邪とインフルエンザの違い

インフルエンザは、**インフルエンザウイルスが起こす感染症**です。大きな特徴は、急激な発熱（高熱が3～4日続くことも）で、免疫力が低下していると脳症や肺炎など、合併症の危険もあります。

風邪は飛沫感染による呼吸器系の急性炎症の総称として「風邪症候群」と呼ばれ、鼻水、咳、くしゃみ、喉の痛みなど軽い症状で発熱もそれほどありません。

一方、**インフルエンザウイルスは、感染力がとても強いことが特徴**です。

症状は、急激な高熱、全身倦怠感、筋肉痛や関節痛など全身症状が強く、高齢者が罹った場合は死亡率が高いこともあります。

治療薬としてインフルエンザにはタミフルやリレンザ等の抗ウイルス薬がありますが、総合感冒薬は、風邪そのものを治療するのではなく、風邪の症状を抑えて、やわらげるための薬となります。

●「48時間」が大事

現在使われているインフルエンザの治療薬は、**48時間以内に投与**することで効果的に症状を抑えます。

インフルエンザのウイルスは、発症して48時間以内にもっとも増殖しますが、早いうちにインフルエンザとわかれば、抗ウイルス薬によってウイルスの増殖を抑え、症状を軽く済ませ、ほかの人への感染も少なくとどめることができます。

●インフルエンザウイルスは変異する

インフルエンザウイルスには、大きく分け

てA型、B型、C型の3種類があります。感染した動物（宿主）の体内で増殖し、外に放出されて次の宿主に感染します。

ウイルス粒子表面にある赤血球凝集素（HA）とノイラミニダーゼ（NA）の糖たんぱく質は、**増殖するたびに、少しずつ変異が起きることがあります**。既に発見されている有名なものに、A香港型（H3N2）、Aソ連型（H1N1）などがあります。

●「迅速抗原検出キット」による測定方法

現在、当院で使われているインフルエンザの検査法は「迅速抗原検出キット」です。患者さんの鼻やのどの粘液を綿棒でぬぐって検査します。

測定方法は検体をキットに滴下し、発色の有無を目視で判定します。主な特徴は、

- ・大型の分析機器を使わず検査ができ、検査時間も30分以内
- ・目視（目で見て）判定できる
- ・A型ウイルスかB型ウイルスか特定できる

※ただし、インフルエンザに感染していても

- ・症状が出る前のウイルス量が少ない時期
- ・検査する粘液などの採取が不十分な場合

など、検体として採取できるウイルス抗原の量が少ない場合には、検査結果が陽性にならないことがあります。

まずは、インフルエンザに罹らないことが重要です。外出から戻られた際にはうがい、手洗いはお忘れなく。

当院のホームページにも、バックナンバーを掲載しています。
「新潟市民病院 ふれあい広場」と検索してみてください！

発行元：新潟市民病院 広報委員会
新潟市中央区鐘木463番地7 Tel. 025-281-5151

～編集後記～

今年は、秋があつという間に過ぎ去っていったような気がします。日に日に寒くなっていきますので、読者の皆様、体調管理にはお気をつけください。（A）